
安全データシート (SDS)

作成 平成28 年1 月 15 日

改訂 平成 年 月 日

1. 化学物質等及び会社情報**製品**

製品の名称 カインズパーツクリーナー 通常タイプ 650ml

製品のコード

供給者情報

会社名

住所

電話番号

F A X 番号

緊急電話番号

推奨用途及び使用上の制限：自動車用品

2. 危険有害性の要約

重要危険有害性及び影響

特有の危険有害性

GHS 分類

物理化学的危険性

エアゾール 区分1

健康に対する有害性

急性毒性(経口) 区分外

急性毒性(経皮) 区分外

急性毒性(吸入：ガス) 区分外

急性毒性(吸入：蒸気) 区分外

急性毒性(吸入：粉塵、ミスト) 区分外

皮膚腐食性/刺激性 区分外

眼に対する重篤な損傷性/目刺激性 区分外

呼吸器感作性 区分外

皮膚感作性 区分外

生殖細胞変異原性 区分1A

発がん性 区分外

生殖毒性 区分1A

標的臓器/全身毒性(単回曝露)	区分3(気道刺激性、麻酔作用)
標的臓器/全身毒性(反復曝露)	区分1(神経系)
	区分2(神経)
吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性	
水生環境有害性(急性)	区分3
水生環境有害性(慢性)	区分外

ラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険有害性情報

危険

極めて可燃性／引火性の高いエアゾール

(気道刺激性) 気道への刺激のおそれ／(麻酔作用) 眠気またはめまいのおそれ

遺伝性疾患のおそれ

生殖能または胎児への悪影響のおそれ

長期または反復ばく露による臓器(神経系)の障害

長期または反復ばく露による臓器(肝臓)の障害のおそれ

水生生物に有害

高圧容器：熱すると破裂のおそれ

取扱注意

[予防策]

保護手袋および保護眼鏡／保護面を着用すること。

防爆型の電気機器／換気装置／照明機器等を使用すること。

容器および受器を接地すること。

この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。

加圧容器：使用後穴をあけたり燃やしたりしないこと。

火花を発生しない工具を使用すること。

使用前に取扱説明書入手すること。

取扱い後はよく手を洗うこと。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

	<p>熱／火花／裸火／高温のもの<のような着火源>から遠ざけること。－禁煙。</p> <p>必要に応じて個人用保護具を使用すること。</p> <p>ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入しないこと。</p> <p>容器を密閉しておくこと。</p> <p>裸火または高温の白熱体に噴霧しないこと。</p>
[対 応]	<p>火災の場合には、消火に粉末消火剤、二酸化炭素、泡消火剤、乾燥砂を使用すること。</p> <p>気分が悪い時は、医師の診断／手当てを受けること。</p> <p>皮膚(または髪)にかかった場合：直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと／取り除くこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。</p> <p>暴露または暴露の懸念がある場合：医師の診断／手当を受けること。</p>
[保 管]	<p>日光から遮断し、40℃を超える温度に曝露しないこと。</p> <p>施錠して保管すること。</p> <p>容器を密閉して換気の良いところで保管すること。</p> <p>涼しい所/換気の良いところで保管すること。</p>
[廃 棄]	<p>内容物/容器を各都道府県の規則に従って、専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託する。</p> <p>GHS 分類に該当しない他の危険性</p> <p>分類 高圧ガス(可燃性ガス)、引火性液体。</p> <p>危険性 可燃性ガスが入っている。引火及び高温による内圧上昇により破裂の恐れがある。</p> <p>引火性の極めて強い液体で、空気との爆発性混合ガスを形成しやすい。</p> <p>有害性 非常に燃えやすい液体である。高濃度の気体を吸入すると、弱い麻酔性のため一時的に神経系の機能低下を生じる恐れがある。又、液状のガスが皮膚に触れると凍傷を生じる恐れがある。</p> <p>蒸気吸入により、めまい、頭痛、中枢神経系機能の低下などの症状が起きる。</p>

3. 組成・成分情報 (混合物・危険有害性物質を対象)

成分名 (別名)	CAS No.	含有濃度(質量%)	化学式又は構造式	官報公示整理番号		PRTR 法
				(化審法)	(安衛法)	
イソヘキサン	107-83-5	65.0~75.0	C ₆ H ₁₄	(2)-6	-	-
ノルマルヘキサン	110-54-3	0.70	C ₆ H ₁₄	(2)-6	520	第一種
エタノール	64-17-5	5.0~10.0	C ₂ H ₆ O	(2)-202	-	-
プロパン	74-98-6	10.0~20.0	C ₃ H ₈	(2)-3	-	-
n-ブタン	106-97-8	1.0 以下	C ₄ H ₁₀	(2)-4	-	-
i-ブタン	75-28-5	1.0 以下	C ₄ H ₁₀	(2)-4	-	-
二酸化炭素	124-38-9	5.0 未満	CO ₂	(1)-169		-

4. 応急処置

以下のいずれの場合も医師の手当を受けること。

- 目に入った場合 :直ちに、清浄な大量の水で最低15 分間洗い流す。
次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。さらに長時間洗浄を続けること。
速やかに医師の手当てを受ける。
- 皮膚に付着した場合 :汚染された衣服、靴等をすべて脱ぎ、皮膚に付着した部分を直ちに大量の水及び石鹼を使用して十分に洗浄する。
溶剤、シンナーは使用しないこと。
ガスの付着を受け、凍傷となった場合には衣服は脱がせず、そのまま多量の水または温水で洗い流す。
外観に変化が見られたり、痛みがある場合には医師の手当てを受けること。
汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
- 吸入した場合 :被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移し、暖かく安静にする。呼吸が不規則か止まっている場合には人工呼吸を行う。
空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
直ちに医師の診断を受けること。
蒸気、ガスを吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の新鮮な場所で安静にし、医師の手当を受けること。
- 飲み込んだ場合 :誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の

	<p>手当てを受けること。</p> <p>口をすすぐこと。</p> <p>揮発性液体なので吐き出させるとかえって危険である。</p> <p>直ちに医師の手当てを受ける。</p> <p>被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。</p> <p>医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。</p>
最も重要な兆候及び症状	: 特になし
応急措置をする者の保護	: 救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。内溶液との接触は避ける。
医師に対する特別注意事項	: 特になし

5. 火災時の措置

消火剤	: 粉末、二酸化炭素、泡、水噴霧
使用してはならない消火剤	: 棒状の水消火剤
火災時特有の危険有害性	: 火災の現場にエアゾール容器があると破裂する恐れがある。 燃焼ガスには一酸化炭素等の有害ガスが含まれるので、煙の吸入を避ける。 加熱により蒸気が空気と爆発性混合気を生成する恐れがある。屋内、屋外又は下水溝で爆発の危険性がある。
特有の消火方法	: 作業は風上から行い、関係者以外の立ち入りを禁止する。 可燃性の物を周囲から素早く取り除くこと。 指定の消火器を使用すること。 火災の現場にエアゾール容器があると破裂する恐れがあるので、消火活動には距離を十分に取り、高温にさらされる製品容器には水等をかけて冷却する。 火災発生場所周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
消火を行う者の保護	: 消火者は必ず適切な保護具（耐熱着衣、保護眼鏡等）を着用し、有毒ガスが発生する為、空気呼吸器等を装備する。

6. 漏洩時の措置

<p>人体に対する注意事項、 保護具及び緊急措置</p>	<p>：曝露防止の為、作業の際には適切な保護具を着用する。 漏れ発生時（噴出時）には風上より処置を行うようにし、容器の漏出部は上向きにし、完全にガスを噴出させてから処置をする。 付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を素早く取り除き、風下の人を避難させ、関係者以外の立ち入りを禁止する。 着火した場合に備えて適切な消火器を準備する。 回収作業においては、火花を発生しない安全なシャベル等を使用する。</p>
<p>環境に対する注意事項</p>	<p>：漏出液を下水や側溝等に流してはならない。 密閉した場所に入る前に換気する。 衝撃、静電気にて火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。</p>
<p>少量漏出の場合</p>	<p>：漏出液をおが屑、ウエス、砂等で吸収させ、密閉できる空容器に回収する。 回収するには清潔な帯電防止工具を使用する。</p>
<p>大量漏出の場合</p>	<p>：漏出液を土砂等で流れを止め、安全な場所に導いてから回収する。</p>
<p>二次災害の防止策</p>	<p>：付近の着火源となるものを速やかに取除くとともに消火剤を準備する。 床に漏れた状態で放置すると、滑りやすくスリップ事故の原因となる為注意する。 漏出物の上をむやみに歩かない。 火花を発生しない工具を使用する。</p>

7. 取扱い及び保管上の注意（関連法規に準拠して作業すること）

取扱い

技術的対策

- ：使用時には、使用者にかからないように風の流れを背後から受けるようにすること。
- ：周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。
- ：火炎に向かって噴射してはならない。
- ：温度が高くなる場所に置くと、容器が破裂する恐れがある。
- ：容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、または引き

局所排気・全体換気	ずるなどの取扱いをしてはならない。
注意事項	取扱う場合は、局所排気内、または全体換気設備のある換気のよい場所で行う。 密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具を着けて作業すること。 取扱い後は手洗い等を十分に行い、衣服に付着した場合は着替える。 静電気対策を行い、作業衣、作業靴等は通電性の物を使用する 使用機器は確実にアースをとる。
安全取扱い注意事項	蒸気の吸入、皮膚への接触を避ける。 酸化性のものとの接触禁止。
保管	
適切な保管条件	幼児の手の届かない所に置くこと。 直射日光を避け、通風の良い所に保管する。 缶が錆びて内容物が漏出、又は噴出する恐れがある為、水回り等の湿気の高い所での保管は避けること。 火気、熱源から遠ざけて保管する。 40℃以上になる所には置かないこと。 その他、消防法、労働安全衛生法等の法令に定めることに従う。
安全な容器包装材料	高圧ガス保安法等の法令で規定されている容器を使用する。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策	取扱い設備は防爆型を使用する。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。 排気装置を付けて、蒸気及び炭酸ガスが滞留しないようにする。 取扱い場所の近くには、高温、発火源となるものが置かれなければならない設備とすること。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
------	--

曝露限界値

成分名	管理濃度 (安衛法)	許容濃度		
		日本産衛学会	ACGIH (TLV-TWA)	ACGIH (TLV-STEL)
イソヘキサン	設定されていない	設定されていない	500ppm, (1760mg/m ³)	設定されていない
ノルマルヘキサン	40ppm	40ppm (140mg/cm ³)	50ppm	1000ppm
エタノール	設定されていない	設定されていない	1000ppm (1880mg/m ³)	設定されていない
液化石油ガス	設定されていない	設定されていない	プロパン 2500ppm ブタン 800ppm 以下	設定されていない
二酸化炭素	設定されていない	5,000ppm	5,000ppm	15,000ppm

保護具

呼吸器の保護具

- ・必要に応じて着用する
- ・狭い空間や、通気の悪い場所での作業は出来るだけ避けるべきではあるが、止むを得ない場合は十分な局所排気装置を付けた上で有機ガス用防毒、送気マスク、空気呼吸器を着用すること。又、広く通気のよい場所でもその作業状況（長時間使用、大量使用等）に応じて着用し安全に努めること。

手の保護具

- ・皮膚に付着した場合、脱脂性があり、乾燥、ひび、皮膚炎などがあるため、皮膚に付着しないよう耐油性の保護手袋を使用すること。

目の保護具

- ・目に入った場合、強い目刺激があるため、保護眼鏡、ゴーグル型、防災面等の保護具を使用すること。

皮膚及び身体の保護具

- ・衣類に付着した場合、衣類にしみ込み皮膚付着し乾燥、ひび、皮膚炎などがあるため保護衣、前掛け、保護長靴等を使用すること。

適切な衛生対策

- 作業中は飲食、喫煙をしない。
- 取扱い後は手をよく洗う。

* 上記以外の使用方法においても出来る限り安全対策をして作業を行う。又、これらの情報すべてが安全を保障するものではありません。

9. 物理的及び化学的性質, 危険性情報

	内溶液	噴射剤 液化石油ガス	噴射剤 二酸化炭素
状態	液体	大気圧下 ガス状、 圧力容器内 液状	大気圧下 ガス状、圧力容 器内液状
外観	無色透明	無色透明	無色透明
臭い	溶剤臭	無臭	無臭

pH	データなし	該当しない	3.7 (25°C, 1atm, 飽和水)
融点	データなし	-187.7~-138.4°C	三重点-56.6°C
沸点	61°C(イソハキソとして)	-42.1~-0.5°C	
引火点	-30°C(イソハキソとして)	-104.4~-73.8°C	なし
発火点	データなし	405~550°C	なし
爆発範囲	1.2~7.7vol% (イソハキソとして)	1.8~9.5vol%	なし
蒸気圧	データなし	0.278~1.275MPa (40°C)	5.733MPa (20°C)
蒸気密度	データなし	1.895~2.538kg/m ³ (1MPa, 15.6°C)	1.9770kg/m ³ (1atm, 0°C)
比重	0.660 (20°C)	0.500 (20°C)	データなし
溶解性	データなし	水に微溶	0.878 L CO ₂ / L H ₂ O
オクタノール/水分配係数	データなし	データなし	データなし
分解温度	データなし	データなし	データなし
その他	データなし	データなし	データなし

10. 安定性及び反応性 (製品として)

安定性	40°C以上になると破裂の恐れがある。 常用温度で缶内圧は約0.50MPa。 内溶液は極めて可燃性が高い為、僅かな放電で引火する危険性がある。
危険有害反応可能性	酸化剤や過酸化剤との接触で火災や爆発を起こすことがある。 ある種のプラスチック、ゴム、被膜剤を侵す。 硝酸、硝酸銀、硝酸水銀、過塩素酸マグネシウムなどの強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。
避けるべき条件	高温多湿な場所での保管及び火気の近くでの使用。 硝酸、硝酸銀、硝酸水銀、過塩素酸マグネシウムなどの強酸化剤。
危険有害な分解生成物	一酸化炭素、窒素酸化物など有害なガスを発生する恐れがある。
その他の危険性	二酸化炭素を急速に放出した場合、ドライアイスが発生又は、配管中の錆、ダスト、水分等により静電気が発生し、可燃性混合気体がある場合には着火することがある。

11. 有害性情報（内容液について。人についての症例、疫学的情報を含む）

急性毒性（経口）	：（製品のデータ）情報なし （成分のデータ：イソキサ）飲み込むと肺に吸収され化学性肺炎の危険を伴うことがある。高濃度の場合、意識低下を起こすことがある。※n-ヘキサの情報を記載 （成分のデータ：エタノール） ラットD50=6.2-17.8g/kg ラットD50>5g/kg ラットD50=13.7g/kg
急性毒性（経皮）	：（製品のデータ）情報なし （成分のデータ）情報なし
急性毒性（吸入：ガス）	：（製品のデータ）情報なし （成分のデータ：フッロハ） モルモットC50（2時間）>55000ppm モルモットC50（4時間）>38890ppm（ACGIH 7th, 2001） （成分のデータ：n-ブタン） ラットLC50:277374ppm/4h
急性毒性（吸入：蒸気）	：（製品のデータ）情報なし （成分のデータ：エタノール） ラットLC50=2000ppm/10h（31600ppm/4h） ラットLD50=103g/m ³ /4hr
急性毒性（吸入：ミスト）	：（製品のデータ）情報なし （成分のデータ：エタノール） ラットLC50=63000ppm/4h（118mg/L）
皮膚腐食性/刺激性	：（製品のデータ）情報なし （成分のデータ：イソキサ）皮膚の乾燥、脱脂効果がある為、皮膚炎を起こすことがある。 皮膚刺激作用がある。※ヘキサの情報を記載 （成分のデータ：エタノール）OECD TG404 試験 ラット Not irritating American guidelines ラット Not irritating
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	：（製品のデータ）情報なし （成分のデータ：イソキサ）眼刺激性があり、結膜炎を生じることがある。※n-ヘキサの情報を記載 （成分のデータ：エタノール）OECD TG404 試験 ラット Moderate ドレイズ法 ラット Moderately
呼吸器感作性	：（製品のデータ）情報なし
皮膚感作性	：（製品のデータ）情報なし

- (成分のデータ：エタノール) 動物試験で有意の皮膚感作性はみられない。
- 生殖細胞変異原性 : (製品のデータ) 情報なし
(成分のデータ：エタノール) ラット及びマウスにおける優勢致死の報告及びマウス生殖細胞における異数性誘発の報告がある。
- 発がん性 : (製品のデータ) 情報なし
(成分のデータ：エタノール) IARC では、「アルコール性飲料としてヒトに発がん性がある」としてグループ 1 に分類しているが、これはアルコール性飲料を習慣的に摂取するヒトの多数の疫学調査に基づき、アルコール性飲料と食道系及び肝臓のがんの因果関係を認めたものである。他方、ACGIH は、主として作業環境での有害性因子としてエタノールを A4 (ヒト発がん性に分類できない物質) に分類している。
- 生殖毒性 : (製品のデータ) 情報なし
(成分のデータ：エタノール) アルコールの習慣的な大量摂取によりヒト胎児にたいする奇形その他の悪影響が多数報告されている。
- 特定標的臓器/全身毒性(単回曝露)
: (製品のデータ) 情報なし
(成分のデータ：イソヘキサン) 中枢神経系の機能が低下することがある。
(成分のデータ：エタノール) ヒトでエタノールの経口摂取により中枢神経系に急性中毒作用を及ぼし、死に至ることがある。ヒトで 5000ppm (9.4mg/L) の吸入により気道刺激性、昏迷、病的睡眠を起こす。
(成分のデータ：プロパン) ACGIH の人への影響として麻酔作用を示すとの記述がある。
(成分のデータ：n-ブタン) ACGIH 及び産衛学会勧告の人において高濃度吸入で麻酔作用または中枢神経系抑制を示すとの記述がある。
- 特定標的臓器/全身毒性(反復曝露)
: (製品のデータ) 情報なし
(成分のデータ：イソヘキサン) 反復または長期に皮膚に接触すると、皮膚炎を起こすことがある。末梢神経系に影響を与え、多発性神経障害を生じることがある。
※n-ヘキサンを記載

(成分のデータ：エタノール)にてアルコールの長期大量摂取によりほとんど全ての器官に障害を起こすが、最も悪影響を与える標的臓器は肝臓である。障害は脂肪変性に始まり、壊死と線維化を経て肝硬変に至るの記述に基づき区分1(肝臓)とした。また、アルコール中毒患者の禁断症状(振戦症状、てんかん、精神錯乱)の記載に基づき区分2(神経)とした。

吸引性呼吸器有害性 : (製品のデータ) 情報なし

その他の情報 : (製品のデータ) 情報なし

(成分のデータ：二酸化炭素) 空気中の二酸化炭素濃度が上昇するにつれ、人体に対し以下のような影響を及ぼす。

二酸化炭素濃度 (%)	影響 (通常の酸素濃度における)
0.04	正常空気
0.5 (TLV)	長期安全限界
1.5	作業性及び基礎的生理機能に影響を及ぼさずに長時間にわたって耐えることができるが、カルシウム・リン代謝に影響の出る場合がある。
2.0	呼吸が深くなる：1回の呼吸量が30%増加
3.0	作業性低下：生理機能の変化が体重、血圧、心拍数などの変化として現れる。
4.0	呼吸が更に深くなる：呼吸数が増加して、軽度のあえぎ状態になる：相当な不快感
5.0	呼吸が極度に困難になる：重度のあえぎ：多くの人がほとんど耐えられない状態になる：悪心(吐気)の出現する場合がある：30分の曝露で中毒症状
7~9	許容限界：激しいあえぎ：約15分で意識不明
10~11	調整機能不能：約10分で意識不明
15~20	さらに重い症状を示すが、1時間で死亡することはないと思われる。
25~30	呼吸低下：血圧下降：昏睡：反射神経喪失：麻痺：数いと思われる。

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性 : (製品のデータ) 情報なし

	(成分のデータ:エタノール) 甲殻類(オミジソコ) LC50:5463.9mg/Lから区分外とした。
水生環境慢性有害性	: (製品のデータ) 情報なし (成分のデータ:エタノール) 難水溶性でなく(水溶解度=1.00x10 ⁶ mg/L)、急性毒性が低いことから区分外とした。
その他	: 二酸化炭素は地球温暖化の主因物質の一つと言われており様々な削減手段が国の内外で検討されている。

13. 廃棄上の注意

廃棄をする場合には、ガスを完全に抜いた後に行う。

残余廃棄物	: ガスを完全に抜いた後の内容液は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託するか又は、容器に穴を開け、珪藻土等に吸着させて開放型の焼却炉で少量ずつ焼却する。 その場合は有害性ガスを発生する為、洗浄装置の無い焼却炉を使用しないこと。 容器、機械装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さないこと。
汚染容器・包装	: 中身を使い切ってから分別廃棄する。

14. 輸送上の注意

・「7. 取扱い及び保管上の注意」の項を参照のこと

輸送の特定の安全対策及び条件

運搬に際しては容器を40℃以下に保ち、転倒、落下並びに損傷がないように積込み、荷崩れの防止を確実に行う。

国内規制

陸上輸送

消防法ほか法令の輸送について定めるところに従う。

海上輸送

船舶安全法に定めるところに従う。

航空輸送

航空法に定めるところに従う。

国際規制

国連分類

IMDG コードclass 2.1

国連番号

1950

15. 適用法令

労働安全衛生法 引火性液体、通知対象物質(引火性の物)

表示対象物質	:ノルマルキタン(但し1%以下なので表示義務はない)
通知対象物質	:ヘキサン、エタノール
船舶安全法	高压ガス、引火性液体
航空法	高压ガス、引火性液体
港則法	引火性液体類(低)
高压ガス保安法	適用除外(液化ガス・可燃性ガス・圧縮ガス) 但し、政令告示並びに高压ガス保安一般規則規定に従う。
消防法	第四類第一石油類
危険物船舶運送及び貯蔵規則	IMDG コードclass 2.1 (UN No. 1950)。
蔵規則	
毒物及び劇物取締法	該当しない。
海洋汚染防止法	有害液体物質(Y 類物質ばら積み運送における有害液体物質)
PRTR 法	第一種指定物質(ノルマルキタン)但し、1%以下のため管理対象とはならない。
地球温暖化対策の推進に係わる法律	温室効果ガス(二酸化炭素)

16. その他の情報

参考文献	原料SDS 液化石油ガスSDS 炭酸ガスSDS 化学物質管理促進法対象物質全データ 労働安全衛生法対象物質全データ 毒物及び劇物取締法対象物質全データ(化学工業日報社)
記載内容の取扱い	全ての資料や文献を調査したわけではないため、情報漏れがあるかもしれません。また新しい知見の発表や従来の説の改訂により内容に変更が生じることがあります。ここに記載された情報は情報の完全さ・正確さを保証するものではありません。全ての化学品には未知の有害性があるため、取扱いには細心の注意が必要です。本品の適正に関する決定は使用者の責任において行って下さい。__